

「居心地のよい空間づくりを語るシンポジウム

～西武新宿線沿線でつながる暮らしとまち～」議事録

トークセッション編

◎櫻井 恭子氏ご紹介

(司会)

「トークセッションに先立ちまして、本
日ご参加いただく櫻井恭子さんにつ
いてご紹介いたします。櫻井 恭子さ
さんは東京都東村山市のご出身。大学卒
業後は池袋・新宿・中野のビアレストラ
ンで修業を積み、2006年に沼袋、
新井薬師で地域に根ざした個性豊か
な店舗を展開されています。

また、地域活性化にも積極的に取り
組まれており、2020年からは沼袋駅周辺の飲食店30数店舗と連携したイベントを主
催。

自らの足で参加店舗を回って協力を得るなど、行動力と情熱を持って地域を盛り上げて
いらっしやいます。

今年の夏には、店舗だけでなく道路予定地で音楽ライブを開催するなど、さらに活動の幅
を広げられました。

さらに、区が実施しているリノベーションまちづくりに参加され、地域と人をつなぐ取り組
みに力を注いでおられます。」

4. トークセッション

登壇者のご紹介

櫻井 恭子氏

- ・1976年東京都東村山市生まれ。
- ・大学卒業後、池袋、新宿、中野のビアレストランで修業。
- ・沼袋で3店舗、新井薬師に1店舗バーを経営。
- ・8月には沼袋駅周辺店舗を利用した人に各店が特典を用意する「夏だ！浴衣だ！！ナッツ祭り！！」を主宰。参加店舗を自らの足で駆け回り了解を取った行動派。
- ・今年の夏は店舗だけでなく道路予定地で音楽ライブなども開催。
- ・カルティベートプログラム@中野沼袋に参加

居心地のよい空間づくりを語るシンポジウム～西武新宿線沿線でつながる暮らしとまち～

テーマ①「西武新宿線沿線及び新井薬師前駅・沼袋駅の分析結果について」

(司会)

それではトークセッションに移らせていただきます。

まず三友先生にお伺いします。千代田区や国立市、東村山市などでまちづくりに携わって

これでしたが、この新井薬師前駅・沼袋駅周辺や西武新宿線沿線について、どのようにお考えでしょうか？

(三友先生)

「実は3日前の日曜日に川越市で“らしさ”について考える、駅周辺を対象としたまちづくりワークショップに参加してきました。らしさを考えることは意外と難しいのです。特に、そこに住んでいる方ほど難しいかもしれませんが、地域外の人に『おすすめしたいもの』を考えてみると良いと思います。

おすすめの場所でもいいし、お店でもいいし、食べ物でもいいです。あるいは、この地域の気質みたいなものでもいいのです。そういうことが積み重なって“らしさ”につながっていくと思います。

私が感じる西武新宿線沿線のらしさ、雰囲気は、いい意味で“普段着”です。気負わない感じですね。沿線の中でも両駅の周辺は特にそのような空気を持っているように思います。ですから、場所を新しくつくったり、再整備したりする際には、地域住民の方が“自分の庭”や“自宅の一部”のように感じられる空間になると良いと思います。普段着で行ける場所ですね。」



(司会)

「ありがとうございます。続いて、酒井区長にお伺いします。西武新宿線沿線のまちの特徴について、どのように感じられていますか？」

(酒井区長)

「そうですね、まず地図を見てもわかるように、周りは本当に緑が豊かです。平和の森公園が近くにありますが、新井薬師や沼袋には歴史ある寺院や神社が点在していて、緑地も広がっています。自然に恵まれた環境だと感じますね。それから、私は隣の野方に住んでいて、



沼袋にもよく行きますが、商店街がとても豊かです。昔ながらの個店が多く、古いお店も残っています。そういう特徴があって、さらに地元の人たちがイベントを企画して盛り上げてきた歴史もあります。例えば、以前は沼袋の氷川神社でジャズフェスティバルが開かれていました。こうした文化や活気がある町だと思います。

新井薬師の方は、梅照院などの門前町として栄えた歴史があり、骨董市などのエピソードも残っています。由緒ある町という印象ですね。

こうした地域の個性や魅力を生かしながら、今後のまちづくりを進めることが重要です。



もともとこの沿線はウォーカブルな街で、皆さん駅まで歩いていきますし、車を持たない方も多い。すでに“歩いて暮らせる街”ではありますが、それをさらに魅力的にするために、駅前や上部空間をどう設え、どうデザインするかが大事だと思います。我々としても、そういう特色を生かした街づくりをしていかなければならないと考えています。」

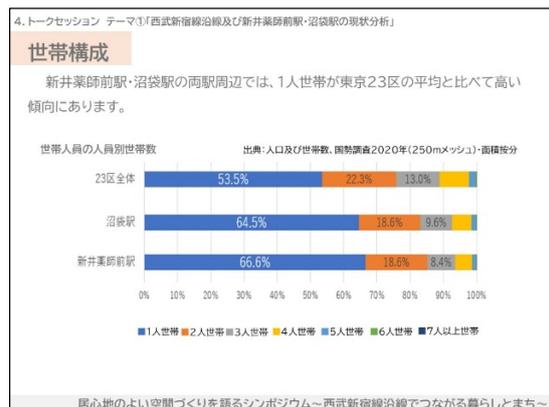
(司会)

「ありがとうございます。では、櫻井さん、実際に新井薬師に住み、沼袋でお店をされている立場からお話をお願いします。」

(櫻井さん)

「私は20代半ば、25歳くらいのときに新井薬師に引っ越してきて、30歳で沼袋にお店を出しました。もともと中央線に憧れていたんですが、結局落ち着いたのは西武新宿線沿線。黄色い電車を見ると安心するんです。今でも西武新宿線沿線は家賃が比較的安く、住みやすいと皆さん言っています。

この沿線は一人暮らしの方が多いので、カウンターだけのお店をやっている私にはとても合っていて、楽しく続けられています。でも、長くやっていると、お客さんが結婚して子どもができ、ファミリーになっていく姿も見えてきます。地域の活気には、子どもやファミリーが元気であることが欠かせないと自然に学びました。



そして、今後、西武新宿線が地下化されたときには、老若男女、いろんな国籍や職業の方、そしてお年寄りや体の不自由な方まで、誰もが安心して使える場所になってほしいと思っています。」

(司会)

「先ほど三友先生からも、主役は住民であり、行政は黒子になるというお話がありました。過去の事例も踏まえて、西武新宿線での取り組みにおけるヒントや方向性について、一言お願いします。」

(三友先生)

「お二人のお話を伺って、この沿線が本当に魅力ある場所だと改めて感じました。また、中野区という多様な要素を持つ地域の中で、この沿線や両駅周辺は“気負わず普段着で行ける”という特徴があることも再認識しました。

“気負わず普段着で行ける”空間をどうつくるかは難しい課題ですが、ハードの整備

だけでなく、ソフト面であるマネジメントのあり方も重要です。櫻井さんのように地元を愛し、地域に根ざしている方がたくさんいらっしゃいます。そういう方々に、管理というより“運営を委ねる”仕組みが必要だと思います。

日本では『これは禁止です』『こう使ってください』という制約が多く、行政と住民とのやりとりが“許可とお金”の話になりがちです。でも、本来は“地域や場所を良くしたい”という思いは行政も住民も同じです。そのためには、対話を重ね、少し委ねてみる気持ちが大切です。

私はよく“余白”“余地”という言葉を使いますが、空間のデザインに余白・余地を残すだけでなく、管理や運営といったマネジメントにも余白・余地が必要だと思っています。自由度を持たせ、試行錯誤できる仕組みをつくる必要があります。空間として完成しても地域の場所や地域住民の居場所になるために、運営も小さく試して改善していくことが重要です。そういうプロセスを、地元の知恵や力を借りながら進めることが、これからのまちづくりには欠かせないと思います。」



(司会)

「ありがとうございます。つづきまして、再び酒井区長に伺います。区では街路事業などを進めていますが、単に道路を整備するだけでなく、行政として気をつけていることや考えている視点についてお聞かせください。」

(酒井区長)

「はい、例えば沼袋では、駅前から新青梅街道まで伸びる四号線の拡幅事業を進めています。もちろん交渉や調整もありますが、単に道路を広げるだけではなく、“その場所をどういう空間にするか”という視点が常に必要だと思っています。

今、区では実証実験として、区が所有する土地を暫定的に活用し、どんなことが

できるかを試しています。これは、完成形を考えるだけでなく、進めている間のデザインも住民と一緒につくっていくためです。

まちづくりは時間がかかるものですが、その間も絶やさず、試行を重ねながら、地域の方々と共に考え続けることが大切だと思っています。」



もつながっています。歩くことで自然に体を動かし、健康になれる街。それが理想です。今回のアンケートを見ると、三友先生の分析にもあったように、“にぎわい”や“居心地”“くつろぎ”という言葉が多く出ていました。こういう空間があれば、『歩いて行ってみたい』という気持ちにつながります。それがスマートウェルネスシティの実現に直結すると思います。

また、散歩やジョギングをしたいという声も多かったです。そういう方は自然に健康になれるわけですが、出かけるのが面倒だと思っている人も、『あそこに行けば楽しいことがある』と思える仕掛けが必要です。

そして、私が衝撃を受けたのは、子どもたちの希望の1位が“公園”だったことです。公園はたくさんありますが、子どもたちが本当に欲しい公園はどんなものなのか、もっと掘り下げる必要があります。遊びや居場所、友達と話せる空間、あるいは勉強できる場など、今できていないことができる場所をつくるのが重要です。

いずれにせよ、子育て世代や子どもたちの意見をしっかり聞きながら、どういう空間にするかを行政としてまとめていく。それが今後の課題だと思っています。」

4. トークセッション テーマ②「過年度アンケート及びティーンズ会議の結果及び中野区での具体的な取り組み」

区民アンケート結果

●子どもアンケートの調査結果について

問 鉄道地下化後跡地に欲しいもの

単位:件 回答者数: 417件

	公園				その他の分類										
	公園	みどりのある歩道	自転車専用道	その他	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	件数
①沼袋駅と野方駅の間	42	19	11	41	ゲームセンター										88
②沼袋駅周辺	55	38	41	146	大型スーパー										38
③新井薬師前駅と沼袋駅の間	36	20	17	52	遊園地										25
④新井薬師前駅周辺	50	15	12	82	プール										20
⑤中井駅と新井薬師前駅の間	36	9	3	40	駄菓子屋										17
⑥場所の指定なし	82	41	47	216	おもちゃ屋、ショッピングモール										15
					ゲームショップ										13
					ホテル										11
					カフェ、温泉、アスレチック										10
					スーパー、学校										9

居心地のよい空間づくりを語るシンポジウム～西武新宿線沿線につながる暮らしとまち～

(司会)

「櫻井さん、公共空間の活用について、中野駅周辺の事例が多く出ていますが、新井薬師前や沼袋に住み、店舗を持たれている立場から、西武新宿線沿線の印象や面白さについてお聞かせください。」

(櫻井さん)

「はい、私は使う側として、住まわせてもらっている立場としてお話しします。沼袋は、もともと駅から100メートル以内にスーパー、銀行、郵便局、薬局が揃っていて、本当に便利な場所でした。2019年にお店を始めたときの印象もそうでしたし、地元の方も『昔はもっと良かった』とよく話してくれます。最近は少し寂しくなったという声も聞きますし、私自身もそう感じます。

新井薬師については、駅前の象徴的なビルにディーブだけどほっこりするお店が多かったんですが、そのビルがなくなってしまった寂しさがあります。昔を取り戻すというより、良

かった雰囲気を残せるといいなと思っています。

緑が豊かで、駅と駅の間には自然があります。私は桜が好きなので、桜並木があったら素敵だと思います。今、沼袋では毎週末キッチンカーの実験をしていますが、景色としてとても良いんです。こういうキッチンカーが置けるスペースや、電源が取れるスポットがあれば、有事にも役立つという話も出ています。

駅前には便利なスーパーも必要ですが、道の駅のように地域性や特色が出る買い物スポットがあったら面白いと思います。そして、地下化で駅のシンボルがなくなるのは寂しいので、例えば桜と黄色い西武線を組み合わせたスポットが駅の上に来たら、西武線ファンはきっと喜ぶと思います。」



(司会)

「区長からは公園の必要性が、櫻井さんからも広場やイベントとのつながりについて話がありました。公園とにぎわいの共存を考える際、どのような点に気をつけて設計すべきでしょうか？」

(三友先生)

「最初に“サードプレイス”という言葉を紹介しましたが、これはレイ・オルデンバーグ氏が提唱した概念で、もともとはカフェやレストラン、バー、美容室、床屋さんなど、自宅や職場・学校以外の居場所である第3の場所を指します。著書ではお店が挙げられていますが、日本では同じような属性の人の中で安心感を感じやすいため、行きつけの場所が、アメリカのように多世代の多様な人が集うお店であるといった方はそう多くはないかもしれません。

そこで重要なのは、広場や公園、街路といった公共空間がその役割を補完することです。お金を使わなくても、一人になりたい日でも行ける場所として、屋外だけでなく屋内にも必要です。大きな公共空間だけでなく、誰かの身近な居場所として裏通りの小さな場所も重要です。

一つの“素晴らしい場所”を作っても足りません。その日の気分や天気・季節などによって選択できるように複数の場所が必要で、しかも“作り込みすぎない”“おしゃれすぎない”ことが重要です。おしゃれな場所は特定の人しか来なくなります。遠くから人を呼ぶために

駅前などにそのような場所を作ることもありますが、普段着で気軽に行ける場所を増やすことが、地域の居心地を高め心地よく暮らすまちになる鍵だと思います。つまり、店舗と公共空間の両方が役割を補完しながら、誰もが気兼ねなくアクセスしやすいサードプレイスとなる場所をつくるのが大切です。」

テーマ③ 「〈当日アンケート〉～お気に入りの中野～」

(司会)

「今回の分析結果について、三友先生のご意見をお願いします。」

(三友先生)

「第一印象として、私が知っている大きな公園等も書かれていましたが、それ以外にもたくさんあることが分かりました。

特に、夜の飲み屋さんを挙げている方が多くて、サードプレイスを持っている方なのだなと思いました。これはとても素晴らしいことです。サードプレイスというと、おしゃれなカフェなどをイメージしがちですが、日本語でいう“行きつけの場所”とも言い換えることができます。店主の方やお客さん同士で顔なじみになっているのではないかと思います。行きつけのお店を持つ方が多いことから、やはり魅力的な地域なのだなと思いました。

一方で、公共空間については、区長がおっしゃったように小さな公園もたくさんあるのですよね。私が知らない素晴らしい場所がまだまだあると思います。今回のアンケートでは、一人一つしか答えていないと思うので、もっとお聞きすれば『今日はこの気分』『週末はこういう場所』といった多様なニーズが見えてくるはずですよ。そういう視点で、さらに掘り下げていくと面白いと思いました。」

(司会)

「区長としては立場上、なかなか『お気に入りの場所』を言いづらいかもかもしれませんが、中野区の中で特に好きな場所を教えてくださいませんか？」

(酒井区長)

「そうですね、公園で言えば、やっぱり平和の森公園は素晴らしいと思います。中野駅の四季の森もちろん良いですが、平和の森は広くて体育館もあり、その1階にはカフェがあります。そこでコーヒーを飲みながらぼーっとすることが、私もたまにあります。とても気分が良いんです。視界が広がる草地もあって、居心地がいいですね。

それから、哲学堂も面白い場所です。どちらかというと、ずっといるというより歩いて回って楽しむ場所ですね。見学しながら散策するのが魅力です。江古田の森もありますし、中野には良い公園がたくさんあります。」

(司会)

「櫻井さん、お気に入りの中野の場所はどちらになりますか？」

(櫻井さん)

「私はやっぱり桜が一番印象的です。中野通りの桜並木は本当にきれいですし、中央線沿いの桜も素敵です。それから、ずっと松が丘に住んでいるんですが、松が丘一丁目に樹齢100年を超える桜が3本並んでいる駐車場があって、そこが本当に美しいんです。印象的な桜で、私にとっては一番心に残っている場所です。」

(司会)

「居心地の良い空間や歩きたくなる空間について、今回の分析を踏まえて、構成要素や分析の方向性についてご意見をお願いします。」

(三友先生)

「私はデザインが専門です。何かを作って終わりではなく、使っている人を観察しながら、どのようなデザインがその地域や空間、その人にとって相応しいかを研究しています。今回お聞きしたお気に入りの場所には、これからのまちづくりや居場所づくりのためのたくさんのヒントがあります。またお気に入りの場所について、今ある魅力をさらに高める、あるいは魅力を維持し続けることも大切です。」

一方で、良いところだけでなく、『あまり好きじゃない』『困った』という声も聞くことも重要です。今ある課題を解決したり、今不足している機能を見つけたりすることができます。また、発想の転換も必要です。例えば、『静かな場所を賑やかにしたい』という相談をよく受けますが、静かな場所は静かであること自体が価値です。観光地や商店街などはにぎわいが必要でしょうが、住宅街なら静けさは素晴らしいことですから、静かに集まれる場所をつくるなど、その特性を活かす方向で考えるべきです。」

つまり、理想郷を一つ目指すのではなく、地域ごとにふさわしい空間をつくることが重要です。そのために、今回の分析で挙げた良い点をヒントにしながら、地域の多様性を尊重したデザインを進めることが重要だと思います。」

(司会)

「未来に残したい中野というテーマで、場所に限らず、居心地の良さや歩きたくなる空間について、区長のご意見をお願いします。」

(酒井区長)

「私は今、野方に住んでいますが、選んだ理由は商店街があることです。個店が並んでいて、車がなくても歩いて好きなお店に行ける。それが私にとって豊かな暮らしだと思います。沼袋や新井薬師も同じように商店街があって、同じような暮らしをされている方が多いと思います。



これからの未来に向けては、さらに“歩きたくなるまちづくり”を進めたいですね。三友先生がおっしゃったように、人によってニーズは違いますし、気分によっても変わります。私自身も一人になりたい時がありますし、そういう時に行ける場所があるといい。逆に、みんなで賑やかに過ごせる場所も必要です。

つまり、いろんな居場所があることが大事です。飲み屋でも、ここはガヤガヤして話せる、ここは静かに一人で飲める、そういう選択肢があるように、公共空間も多様であるべきです。区民の皆さんのニーズを組み合わせながら、将来像を描いていきたいと思えます。新井薬師や沼袋はすでにそういう街ですが、さらに磨きをかけて、歩きたくなる街づくりを進めていきたいですね。」

(司会)

「櫻井さん、未来に残したい中野の姿について、どのようにお考えでしょうか？」

(櫻井さん)

「はい、先ほど桜の話をしました。もちろん個人店が多いところもとても気に入っています。なぜ個人店が好きなのかというと、やっぱり私は人が好きなんですよね。個人店に行くと店主と話せるし、前のお客さんともつながれる。中野には商店も飲み屋もあって、そういう小さなお店が多いのが安心できるし、住みやすい街だと思います。



私自身もそういう空間をつくれたのかなと思っています。そして、お客さんからよく聞くのが『沼袋は都会田舎だね』という言葉。都会の便利さがありながら、田舎の空気感がある。中野全体にもその雰囲気があると思います。地方から来た方も『沼袋は落ち着く』と言っ

てくれるんです。

未来に残したいのは、そういう都会田舎感と、人情味のある街。挨拶ができる空間で思うので、そんなまちと空間がこれからも生まれてほしいなと思います。」